

広島大学学術情報リポジトリ  
Hiroshima University Institutional Repository

Title	ギリシャの中学校国語教科書の通時的研究：世界観の拡大
Author(s)	橘, 孝司
Citation	プロピレア, 26 : 83 - 83
Issue Date	2020-12-30
DOI	
Self DOI	
URL	<a href="https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00050165">https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00050165</a>
Right	Copyright (c) 2020 日本ギリシア語ギリシア文学会
Relation	



## ギリシャの中学校国語教科書の通時的研究

### ——世界観の拡大——

橘 孝司

国立臺中科技大學應用日語系 助理教授

学校教科書にはその時代の社会状況を背景にした教育方針が如実に表れる。国語教科書（読本）の場合であれば、編纂者たちが未来を担う若い学生に読ませたい民族の文学遺産が盛られているだろう。時代が異なれば、当然またその遺産のとらえ方も変わってくるはずである。「国語教科書に掲載された『教材』は、それぞれの時代の教育や文化、あるいは社会の様相を写し出す鏡なのだ」（府川他 2009）。

以上を前提として、ギリシャの異なる二つの時代に編纂された国語教科書（1970年代終わりに編纂された「旧版」と2019年現在使用されている「新版」）を対象とし、ページ数、作品数、採用された文学者の異同、章構成の異同といった、主に「形式面」の調査を通して、時代とともに民族の文学遺産のとらえ方がどのように変化してきたのかを分析した。

具体的には、以下のような「新版」教科書の特徴が明らかになった。

「新版」はかつて定番だった国民詩人の作品などを減らしながらコンパクトになっているが、「旧版」になかった19世紀の「古い世代」の作品を再評価している。また、ギリシャ固有の歴史的出来事を別々の事象としてとらえた「旧版」の章構成に対し、より普遍的な主題に基づく大幅な再編成を行なっている。

この「形式面」の分析に続き、より実質的な「内容面」の分析が今後の課題となるが、そこでの収録作品のテーマもまた、より普遍的・世界規模の問題になってきているという見通しにも言及した。